



## 第64回国民体育大会バスケットボール競技会



開催場所：新潟市東総合スポーツセンター  
 試合区分：少年男子 準々決勝  
 開催期日：2009年10月3日(土)  
 開始時間：15:45

GAME No. 1003F4

主審：久米 克弥  
 副審：宍倉 陵太

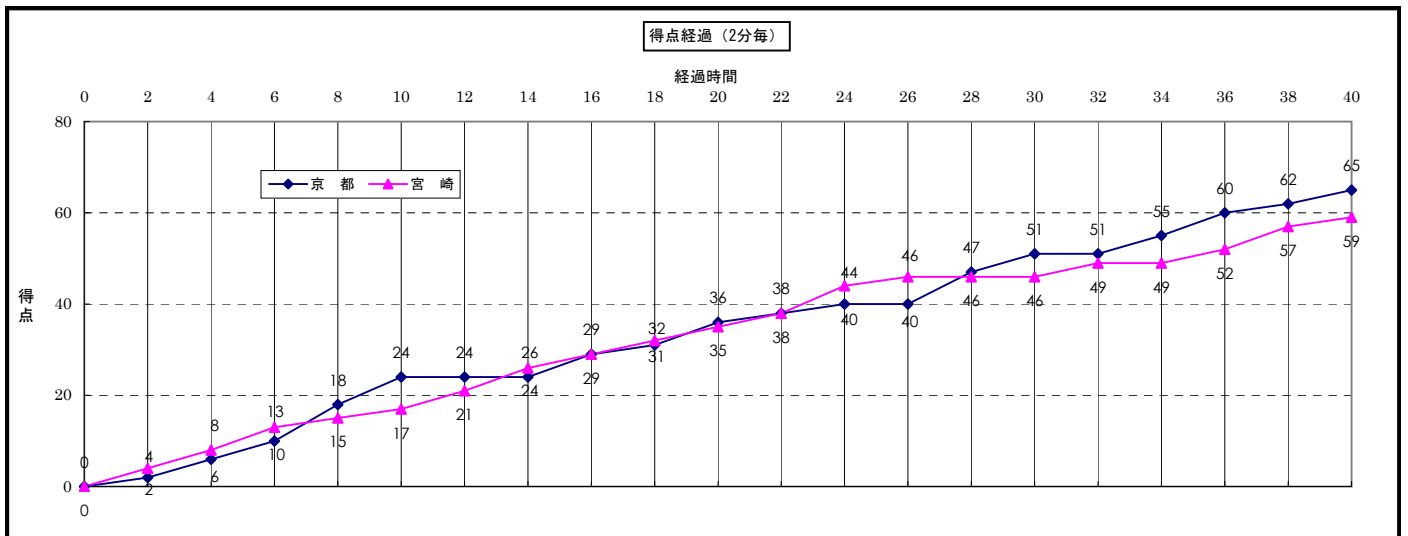
Team A	○	24 -1st- 17 12 -2nd- 18 15 -3rd- 11 14 -4th- 13	●	Team B
京都	65		59	宮崎

TEAM A		京都					
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	蛭名 涼	6	0	2	2	3
5	*	小林 遥太	5	1	1	0	4
6	*	鈴山 高範	25	5	4	2	0
7		河上 宗平	11	1	4	0	3
8	*	塩谷 亨	4	0	2	0	2
9		大八木 誉之	-	-	-	-	-
10		高畑 勇吾	-	-	-	-	-
11	*	木村 晃大	4	0	2	0	1
12		平野 哲朗	-	-	-	-	-
13		笹山 貴哉	5	1	1	0	0
14		満山 拓末	5	1	1	0	1
15		荒谷 優斗	-	-	-	-	-
Coach		作本 信夫雄	-	-	-	-	0
TOTAL			65	9	17	4	14

TEAM B		宮崎					
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4	*	横瀬 孝樹	5	1	1	0	1
5	*	永吉 佑也	17	0	8	1	3
6		寺原 拓史	0	0	0	0	0
7		宇治橋 眞悟	0	0	0	0	0
8	*	長谷場 祐二	0	0	0	0	4
9		田中 芳樹	-	-	-	-	-
10		岩田 大輝	-	-	-	-	-
11		黒木 亮	-	-	-	-	-
12	*	川元 崇史	21	4	3	3	1
13		中村 友哉	-	-	-	-	-
14		相馬 卓弥	-	-	-	-	-
15	*	エリマン・ブイ	16	0	6	4	2
Coach		北郷 純一郎	-	-	-	-	0
TOTAL			59	5	18	8	11

Timeout (経過時間)	1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
	11:48	-	24:48	37:25		

Timeout (経過時間)	1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
	-	-	28:13	35:52		



## ゲームレポート

\* 得点は、(Aチームの得点) - (Bチームの得点) で表記しています。

1Q、両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり、#5永吉のリバウンドシュートで宮崎が先制。対する京都は#11木村のジャンプシュートなどで応戦する。残り5分、7-11とリードした宮崎はゾーンプレスに切り替えて引き離しにかかるが、京都は#6鈴山の3Pシュートで同点とする。その後、逆転に成功した京都は、アウトサイドシュートで加点し、このクォーターは24-17で終了。

2Q、宮崎は#5永吉、#15エリマンのリバウンドシュートなどで得点を重ね、開始3分で24-26と逆転に成功する。対する京都は開始から4分間ノーゴールに抑えられる。しかし、京都は残り5分から追い上げを開始、#7河上のシュートなどで加点する。対する宮崎は#12川元の3Pシュートで応戦するが、最後は京都#6鈴山の3Pシュートが決まり、36-35で京都が1点リードして前半を折り返す。

3Q、開始3分、宮崎は#5永吉のゴール下のシュートで逆転して38-40とし、さらにリードを広げようとする。残り4分、タイムアウトを請求した京都は1:2:2ゾーンプレスにより活路を見出す。これが功を奏し、京都は#7河上が連続得点をする一方、4分間、宮崎を無得点に封じ込める。51-46と京都の5点リードで終了。

4Q、京都は巧みなパスワークから#7河上らがゴール下で合わせ、宮崎のゾーンディフェンスを切り崩し、残り4分、60-52とリードを広げる。宮崎は、#12川元の3Pシュートなどで応戦するが、京都優位の流れは変わらない。残り1分、宮崎はオールコートで圧力をかけて逆襲を試みるが、京都は#4蛭名らがフリースローを落ち着いて決める。結局、65-59で京都が準決勝に駒を進めた。

記載責任者 外山 徹宏 (所属) 新潟県バスケットボール協会